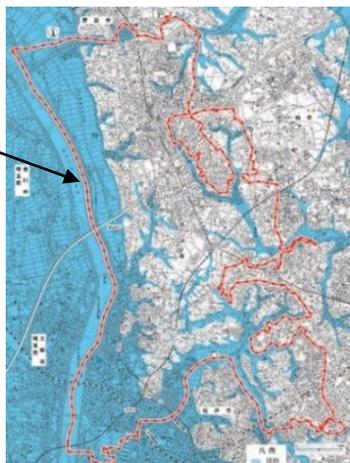
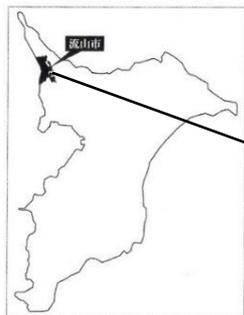


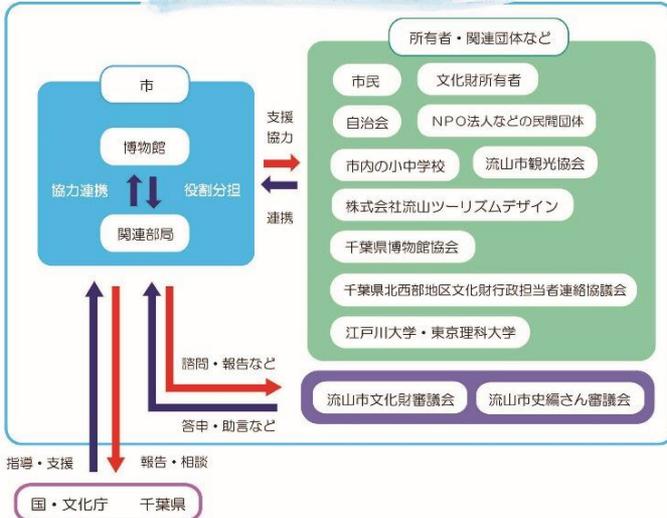
09 流山市文化財保存活用地域計画【千葉県】

【計画期間】令和6～12年度（7年間）
【面積】35.32km²【人口】約21.2万人



推進体制

流山市の文化財の「保存・活用」の推進体制



指定等文化財件数一覧

種類	国	県	市	国	県	市		
指定区分	指定	指定	指定	登録	登録	登録		
有形文化財	建造物		0	0	10	6	0	0
		美術工芸品	0	0	6	0	0	0
	絵画	0	0	12	0	0	0	
	彫刻	0	0	1	0	0	0	
	工芸品	0	0	0	0	0	0	
	書籍・典籍	0	0	0	0	0	0	
	古文書	0	0	0	0	0	0	
	考古資料	0	1	0	0	0	0	
歴史資料	0	0	4	0	0	0		
無形文化財	0	0	1	0	0	0		
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	1	4	0	0	0	
	無形の民俗文化財	0	0	3	0	0	0	
記念物	遺跡	0	0	1	0	0	0	
	名勝他	0	0	0	0	0	0	
	動物・植物・地質鉱物	0	0	2	0	0	0	
文化的景観	0	0	-	-	0	-		
伝統的建造物群	0	-	-	-	-	-		
小計	0	2	44	6	0	0		
合計					5	2		

指定等文化財は52件、
未指定文化財は2,921件把握

歴史文化の特徴

流山の地は、水の恵み、人の交流、モノが交わる文化の地と言える。水・人・モノが交わる流山市の歴史文化は下で示すように6つの特徴がある。

1. 台地と谷津の恵みが生んだ人々の暮らし

人々は台地を住居の場、谷津を水源や水田等として利用していた。台地と谷津が入り組んだ地形の台地には、多くの遺跡が確認されており、古くから住みやすい場所であったことを証明している。

2. 矢木からはじまる流山の中世

流山で最も古く確認できる地名は、香取市にある香取神宮文書にかかれた「矢木」である。鎌倉時代に始まる矢木は、遺跡や古文書等の記録によって、人々の痕跡をたどることができる地区である。

3. 馬から人へ 開発と開墾 小金牧の営み

江戸時代、東武野田線沿いの台地は、徳川幕府の官営牧で馬の放牧地である小金牧があった。小金牧の放牧地は、江戸時代の新田開発によって流山市と柏市境を複雑にし、昭和30年代以降のベッドタウンとしての住宅開発の場となった。

4. みりんや水運で栄えた流山本町

流山本町は、船で江戸まで1日で行けること、原料の水と米に恵まれたことにより、江戸時代中期から醸造業が活発となった。「白みりん」は江戸の食文化に欠かせないものとして人気を博し、流山はみりんの産地として大いに発展した。

5. 水の恵みと自然 利根運河

利根川と江戸川は、物資を運ぶ水運の役割を担っていた。土砂の堆積や濁水により船の通行が困難となったが、明治23年(1890)利根運河が開通し、多くの船が行き交った。現在は、豊かな自然が残り、市民の憩いの場となっている。

6. 豊かな農耕神事 いのりとまつり

人々の「いのりとまつり」は江戸時代から現在まで形を少しずつ変えながら、受け継がれている。現在も市内各地で行われている。市内各所に残る石造物や神社・寺院の祭礼は、歴史文化を物語っている。



利根運河

1 文化財を守る・遺す

- ・歴史的に価値の高い文化財の指定・登録を進め保全を図る
- ・谷津や斜面林の減少
- ・博物館の収蔵施設の確保と常設展示のリニューアル
- ・古文書資料・博物館資料・マイクロフィルム・ネガフィルムの劣化
- ・埋蔵文化財収蔵施設の確保

2 文化財を知る

- ・文化財の現状調査の必要性
- ・博物館活動の参加者にみられる年齢層の偏り
- ・発掘調査の成果を公開の遅れ
- ・文化財の公開ができていない
- ・小・中学校との連携
- ・様々な団体との連携

3 文化財を未来へつなぐ

- ・地域の文化財・伝統行事の継承
- ・市民団体や文化財ガイドの高齢化
- ・防災・防犯体制の整備

課題

方針

- ・文化財の現状調査を進める
- ・博物館の企画展示や講座の充実
- ・デジタル博物館の整備
- ・発掘調査報告書の刊行を進める
- ・情報発信の充実と積極的なアピール
- ・地域連携を図る

取組

- ・担い手の育成を進める
- ・官民が連携し、歴史文化の研究やガイドの人材育成
- ・防災・防犯体制の整備を進める

- 文化財の指定・保存・保全**
- ・文化財指定の推進
 - ・認定文化財制度の導入
 - ・国登録有形文化財秋元家住宅土蔵の整備 など
- 保存・活用の環境整備**
- ・博物館常設展示の整備
 - ・埋蔵文化財収蔵施設の整備
 - ・資料の複製
 - ・資料のデジタル化 など

- 文化財調査**
- ・建造物現況調査
 - ・民俗文化財現況調査 など
- 公開の促進**
- ・調査研究や発掘調査報告書の刊行と公開
 - ・SNSやホームページの充実
 - ・文化財周遊コースの整備 など

- 保存・活用の担い手づくり**
- ・民俗文化財への助成
 - ・基金の活用
 - ・文化財継承の人材育成 など
- 危機管理体制の構築**
- ・防災・犯防体制の強化
 - ・関係機関との協力体制構築 など

4. 国登録有形文化財秋元家土蔵の整備

新選組の本陣跡に建つ秋元家土蔵を保存整備する。本町の歴史や新選組に関心がある人が集う場所にしていく。

■R6~8 ■行政、市民、地域



30. 文化財看板の整備

文化財説明看板や100か所巡り看板の設置とリニューアルを進める。QR・VR・ARも導入する。

■R6~12 ■団体、行政



40. 伝統行事の担い手育成

伝統行事の継続を図るため、記録保存と共に、行事の重要性を伝える啓蒙活動や担い手育成の支援を進める。

■R8~12 ■地域、行政、市民



文化財の保存と活用 関連文化財を活かした取り組み

▲ 時・人・モノ 流れでつながる 流山の歴史文化を表す6つのストーリー

1. 台地と谷津の恵みが生んだ人々の暮らし

江戸川沿いや坂川流域は、台地と谷津（低地）が複雑に入り組んだ地形である。低地に近い台地上は集落の場、谷津（低地）は漁労や水田等の生産の場として、3万年前の旧石器時代から多くの人々が生活の場として利用してきた。遺跡の多さは、水害の心配が少ない台地と水の便がよい谷津で成り立つ住みやすい環境だったことを物語っている。

2. 矢木（八木）からはじまる流山の中世

流山市で確認される最も古い地名は、鎌倉時代初期の香取神宮文書に記されている「矢木郷」である。市境を流れる坂川流域沿いの台地上には中世の史跡や歴史資料が多く残っているほか、江戸時代後期には、流山市と松戸市の市境を流れる坂川の改修事業を行い、流域の洪水対策の改善につとめている。八木地区には中世からはじまり、近世・近代へと続く歴史遺産が多く残されている。

4. みりんや水運で栄えた流山本町

江戸時代、江戸川は各地の物資を江戸に運ぶ重要な交通路となった。流山・加には河岸ができ物資の集積地として、また豊かな水資源と米の生産地を活かした醸造業が発展した。江戸時代後期には白みりんが開発され、江戸前の食文化の発展に大きな影響を与えた。明治初期には、流山本町に県庁が置かれ、裁判所や教員養成学校、小学校が設置されるなど、行政の中心地にもなった。

5. 水の恵みと自然 利根運河

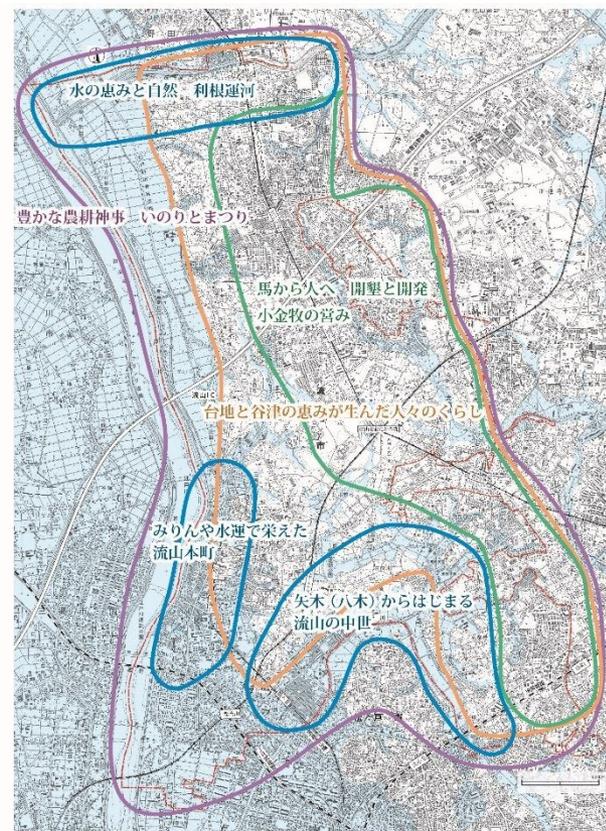
利根川と江戸川は、物資を運ぶ水運としての役割を担っていたが、土砂の堆積や濁水により船の通行ができなくなる状況が発生していた。この状況を改善するために計画されたのが、利根運河である。オランダ人技師ムルデルの設計により、明治23年(1890)に利根運河は開通し、蒸気船や高瀬船などの船が行き交い、大いに栄えた。しかし、物資の輸送手段が船から鉄道に変わり、運河は50年でその役目を終えた。現在は、豊かな自然が残る場所となり、多くの人々が訪れる場となっている。

6. 豊かな農耕神事 いのりとまつり

市内には、多くの石造物が残り、社寺では、お祭りが行われている。医療が発達する以前には、人々は自然災害や流行病に対して、神仏に「五穀豊穡、家内安全、健康、病気平癒」などを願い、石造物を建立したり、念仏を唱えたり、祭礼を行ってきた。現在も続く様々な祭礼の多くは、江戸時代から地域の人々によって守り・継承されてきた。

3. 馬から人へ 開墾と開発 小金牧の営み

東武野田線沿いの台地は、江戸時代には徳川幕府の官営牧で馬の放牧地であった小金牧が広がっていた。放牧地は、江戸時代から新田開発が行われ、昭和30年代には住宅団地開発、平成・令和はおおたかの森駅周辺の開発が行われます。広大な台地は開墾と開発の地となり、人々の生活の場へと変貌していった。



【関連文化財群】 3.馬から人へ 開発と開墾 小金牧の営み

ストーリー

東武野田線沿いの台地は、江戸時代には徳川幕府の官営牧である小金牧が広がっていた。馬の放牧地は、江戸時代から明治・昭和、そして平成・令和と様々な開墾・開発が行われる。流山市と柏市の市境が複雑に入り組むのは、江戸時代の開墾の影響である。昭和30年代には江戸川台や松ヶ丘の住宅団地開発、平成・令和はおおたかの森駅周辺の開発が行われる。放牧地であった広大な台地は、人々の生活の場と変貌した。牧であったの場所には野馬土手や石造物が残されている。

構成文化財

諏訪神社本殿・幣殿・拝殿 オランダ観音 オランダ様 馬頭観音 綿貫氏墓 須賀家文書 岡田家文書 鎚木家文書 恩田家文書 芳野家文書 吉野家文書 松ヶ丘野馬土手 江戸川台東1丁目野馬土手 上新宿野馬土手 駒木野馬土手 長崎野馬土手 新田開発の地名(青田新田 他) 松ヶ丘1号型街路灯 江戸川台・松ヶ丘の街路

保存・活用に関わる課題・方針・措置

- 課題**
- ・松ヶ丘野馬土手の価値の確認不足
 - ・野馬土手の保存の難しさ
 - ・開墾・開発の歴史の周知不足
 - ・小金牧の周知不足
 - ・古文書類の文化財指定の遅れ
 - ・古文書類調査の遅れ

方針

- ・松ヶ丘野馬土手の価値の確認
- ・野馬土手の文化財の市指定・登録・文化財認定
- ・開墾・開発の歴史の周知
- ・文化財看板や周遊コースの整備
- ・地域の関心を高め、まちの誇りに対しての醸成
- ・古文書類の市指定
- ・古文書類の調査・研究推進

措置の例

1(1) 松ヶ丘野馬土手の価値の確認 ■ R8~10 ■ 行政、専門家

隣接する柏市と協力して調査・研究をすすめることにより、松ヶ丘野馬土手の価値を確認していく。

